

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「自分大好き 友だち大好き このまち大好き さくらの子」
 ○困難なことにもあきらめずに挑戦する子どもを育てます。(知)
 ○物事の善悪をきちんと判断し、辛抱と我慢のできる子どもを育てます。(徳)
 ○自分や人の命を大切にできる子どもを育てます。(体)
 ○小さなことでも、社会に役立つための行動ができる子どもを育てます。(公)
 ○様々な人とのコミュニケーションを通じて、社会への視野を広げる子どもを育てます。(関)

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

◆学習の基盤となる資質・能力
 <問題発見・解決力>
 ◆現代的な諸課題に対応して求められる
 資質・能力
 <自分づくりに関する力>

具体化した資質・能力

◆<問題発見・解決力>
 事実を大まかにとらえる力、語彙力、相手の話をじっくりと考えながら聞く力、結果から学ぶ意識、試行錯誤する能力
 ◆<自分づくりに関する力>
 社会生活の中での協調性、あきらめずに挑戦しようとする力、主体性・積極性、自己肯定感

中期取組目標

○身の回りのことに関心をもって問題を発見し、試行錯誤しながら働同的に解決策を見出し実行する。問題発見・解決力を育てます。
 1年目は、好奇心が生まれ問題を発見するような機会を意図的に設定し、解決策を実行する力を育てます。(2年目以降は前年度を振り返り再検討)
 2年目は、身の回りのことに関心をもって問題を発見し、試行錯誤しながら協働的に解決策を見出し実行する力を育てます。
 3年目は、生活や学習から問題を発見し、協働的に解決策を見出し実行し、伝え合うことで自分の考えを深化させる力を育てます。
 ○誰もが安全・安心に生活し、自己発揮できる学びを充実させ、自己肯定感が高まるように、自分づくりに関する力を育てます。
 「居場所づくり」と「絆づくり」を推進し、自他の違いを認め自他のよさを見出す活動を通して、意思決定する力や粘り強く取り組む態度、地域の為に役立つとする姿勢を育みます。
 ○子どもと大人が目標を共有しやすくするために、学校教育目標を1年後の子どものつばやきに置き換えて取り組んでいきます。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	①既習内容の定着と学級づくりのために、スキルタイムの内容・方法を改善する。②「問題発見・解決能力」を育むような授業展開を工夫し、主体的に学べるようにする。③教科横断的な取組など、カリキュラムマネジメントを工夫した足跡が分かるように残り、より実態に合ったカリキュラムを創造する。
担当	C部会

学力向上に関わる本校の状況

1 学力に関わる児童の実態
 ①横浜市学力・学習状況調査結果より市の平均値より毎年大幅にポイントが低い。
 ②全国学力・学習状況調査結果より神奈川県、全国平均と比較して、国語・算数ともに10ポイントほど低い。
 ・既習の学習内容が定着していない児童が多く見られることから、新しく学習する内容と関連させて、既習事項の復習を行い、公式などを理解して確実に使うことができるようにしている。
 ・「学力アクションプラン」を学年ごとに立て、目指す資質能力が育成されるように、日々の授業づくりを行っている。
 ・年に3回とっている児童アンケートの結果をもとに、「授業が分かりやすいか」について振り返り、学年やブロックで方策を考えるようにしている。

2 これまでの学校の取組状況

○朝の10分を「スキルタイム」とし、国語では漢字、算数では計算の基礎力向上を目指して取り組んでいる。学年配当漢字の習得や基礎的な四則計算の習得を目指して、漢字テストやタブレット端末のアプリなどを使って繰り返し練習できるようにしている。また、算数の学習では5～6年生を中心に、単元内容に応じて、TTや少人数指導などを取り入れ、個々に応じた指導ができるように準備している。

今年度の目標

重点研・学年研等で教材研究を行い、「問題発見・解決能力」を育むような授業展開を工夫し、どの子も「わかった」「できた」と感じられるようなカリキュラムを創造する。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
 ・重点研の指導案作り、教材研究を学年で行い、どの子にもわかりやすい授業づくりを目指す。教材研究の時間や学年研の時間を確実に確保する。
 ・1年後に目指したい「子どもの姿やつばやき」を全職員で共通理解し、具体的な子どもの姿をイメージしながら授業づくりをしていく。
 ・令和4年度末にとったアンケート結果をもとに、授業づくり学級づくりの方策を学年やブロックで検討して実践していく。
 ・基礎基本の力が身に付きにくいので、学習語彙を意識的に使ったり日常と関連させたりして繰り返し指導していく。
 ・低学年や特別支援教室でMIMの取組を行い、読みのスキルの向上を図る。
 ・教科横断的なカリキュラムマネジメントの必要性と、よりよいカリキュラム作成のために「学びの足跡カリキュラム」を作成し、見直しをしていく。

下半期
 ・スキルタイムを活用して、漢字や計算の基礎的な力をつけられるようにする。また、つまづきがある子が前学年の学習を復習できるようにアプリやプリントを活用する。
 ・算数少人数指導や、教科担任制などを効果的に取り入れ、子どもたちの様子を学年間で共通理解しながら指導に当たる。
 ・全国学力・学習状況調査や横浜市学力・学習状況調査の結果分析を行う。各学年の苦手項目を把握し、日々の授業で復習したり活用したりして、必要な資質能力を身に付けられるようにする。
 また、教科の点数と生活意識調査のクロス集計による分析を行い、本校児童に必要な力(学習・生活)を見直ししたり、伸びているところを見える化したりして日々の指導に生かしていく。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①教育目標と連携した生活目標を意識した取り組みを継続し、あいさつやふわふわ言葉等よりよいコミュニケーションの仕方を身につける。②異学年交流を児童主体で行えるように、児童会活動の充実を図る。③幼保小の学びの連続を意識したスタートカリキュラムの充実をはかり6年間の基盤をつくる。
担当	B部会

豊かな心に関わる本校の状況

・あいさつ運動では、積極的に取り組めた児童が増えている。普段の生活でも自然なあいさつが身につくように、大人からも積極的にあいさつを心がけている。
 ・ふわふわ言葉は、その大切さを理解し、指導している時には気をつけて使おうとしているが、普段の生活や特にけんかや言い争いの中では、適切でない言葉遣いになっている場面を見かける。

・異学年交流などでは、下学年の友達に優しく接する上学年児童の姿が多く見られる。1年と6年、2年と5年、3年と4年の組み合わせでのペア学年での取組を計画的に行なえるように進めている。

・学援隊の方々をはじめ、地域の方々の協力体制がとて手厚い地域であるため、学校内外を問わず、地域の方々と接する機会が多い。バトロールの方々や学習応援の方々へ、積極的にあいさつをする姿をほめていただく場面も多かった。より一層地域との関りを深めていきたい。

・学校教育目標を実現するために、2ヶ月ごとに学級の目標を決め、振り返りを行っている。毎月行っていた振り返りを2ヶ月ごとに行うことにより、より長い期間での見通しをもった取組となるように工夫して進めている。

・人権週間では、各学年でありがとうカードを送りあう活動をして、豊かな心の育成に努めている。また、人権に対して理解を深める学習に取り組んでいる。各学年で、外部の講師を呼ぶなど、人権への意識が高まるようにしている。

今年度の目標

学校教育目標である「自分大好き 友達大好き このまち大好き さくらの子」を意識し、自己有用感や、コミュニケーション能力を高め、地域と積極的に関わろうとする子を育成する。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
 ・学校生活アンケートを行うことで、児童のおもいをつかむ。
 ・長期休業明けに円滑に学校生活が始められるよう、ミニ面談を行う。また、面談後にブロックでの共有や必要に応じて学校全体での共有を図る。
 ・学級開きを円滑に行うために、YPなどを活用したスタートプログラムを行う。
 ・学校教育目標を達成するために、2ヶ月ごとの学級生活目標をつくり、その振り返りを行う。
 ・自分と違った立場の友だちとふれあうことで、友だちとのかかわりを豊かにするために、ペア学年交流を行う。(1年と6年、2年と5年、3年と4年)
 ・さくらプロジェクトが中心となって、年に2回あいさつ運動を行い、進んであいさつができる児童を育てる。
 ・授業の中で、学び合いや伝えあう場を多く設定し、コミュニケーション力を高める。
 ・生活科や総合的な学習の時間に、まちとかかわりのもてる題材を選び、積極的にまちとかかわりがもてる児童を育てる。
 ・幼保小連携を積極的に進め、思いやりの心を育てる。

下半期
 ・長期休業明けに円滑に学校生活が始められるよう、ミニ面談を行う。また、面談後にブロックでの共有や必要に応じて学校全体での共有を図る。
 ・学校教育目標を達成するために、2ヶ月ごとの学級生活目標をつくり、その振り返りを行う。
 ・自分と違った立場の友だちとふれあうことで、友だちとのかかわりを豊かにするために、ペア学年交流を行う。(1年と6年、2年と5年、3年と4年)
 ・人権週間では、自分と違った立場にある方々とふれあうことで、人権に対する理解を深める。また、ありがとうカードを送りあうことで、友だちの良さを感じられるようにする。
 ・さくらプロジェクトが中心となって、年に2回あいさつ運動を行い、進んであいさつができる児童を育てる。
 ・授業の中で、学び合いや伝えあう場を多く設定し、コミュニケーション力を高める。
 ・生活科や総合的な学習の時間に、まちとかかわりのもてる題材を選び、積極的にまちとかかわりがもてる児童を育てる。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①複合運動である「なわとび」を継続する。短期集中、技の紹介、表彰等の工夫をし、児童が意欲的に継続して取り組む工夫をする。②学校保健委員会の話題を家庭と共有し、学校と家庭の両方で取り組めるようにする。
担当	体育部

健やかな体に関わる本校の状況

・運動が好きな児童の割合は、3・4年生は市の平均を超えている。その他の学年は市の平均に比べて低いものの、運動が好きな児童が半数以上となっている。

・運動やスポーツをする習慣が身に付いている児童の割合は、市の平均と同じくらいである。一方で、ほとんど運動をしない児童が全体の15%となっており、体を動かす児童と、そうでない児童との二極化が表れている。

・体力テストの結果では、学年によってばらつきはあるものの、全体的に女子の方が市平均を超える項目が多い。項目別では、握力や長座体前屈で市平均を上回る学年が多く、立ち幅跳びと反復横跳びについては、全ての学年で市平均を下回っている。これらの種目は、瞬発力や俊敏性などの、体幹の筋力が影響しているものと思われる。今後、遊びや体育の授業を通して、体幹の筋力を高める運動を充実させる必要がある。

・市の平均に比べると朝食の摂取率がやや低い。昨年度と実態はほとんど変わらず、「毎日食べる」児童は全体の80%で、「食べない日が多い」「まったく食べない」児童が全体の約6%となっている。

・むし歯の経験を示すDMF歯数が市の平均を大きく超えており、むし歯を保有している児童が多い。長期休業に歯みがきカレンダーに取り組むと、1日に1回の歯みがき習慣である児童も多く、まったく歯みがきしていない児童もいる。一方で、定期検診に通うなど歯の健康意識が高い家庭もある。

今年度の目標

①児童が楽しみながら体力を向上できる取り組みを行う。②学校保健委員会等の活動を通して、体力向上や生活習慣の改善に進んで取り組む態度を育てる。家庭とも連携した活動を行う。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
 ①体力テストに意欲的に取り組めるような手立てを行う
 ・実施前に前回の結果を個人で見て、前回の結果を超えることを目標とする
 ・体力テストの前週に、体験期間として希望者が体育館で立ち幅跳びや反復横跳びの練習ができるようにする
 ・体力テストの期間に、体力テストの方法や市平均を掲示し、意欲を高める
 ②学校保健目標を「体力向上」とする
 ・ロイロノートでアンケートを取るなど、実態把握に取り組む
 ・睡眠、食事などを取り上げ、生活習慣を見直し、改善できるよう努める

下半期
 ①「なわとび」の取り組みとして、びよんびよん作戦を実施する
 ・児童が意欲的に取り組めるように、なわとびカードを配布する
 ・びよんびよん作戦の実施について知らせ、技紹介などを流す動画やカードの全級合格者には賞状を作成し、朝会で表彰する
 ②体力向上週間の実施
 ・全校児童に「自分の健康」について意識してもらう習慣を設定する
 ・体力向上振り返りカード等を用いて、家庭とも連携する

③学校保健委員会を開催する
 ・学校保健委員会向け、健康委員会で「体力向上」のために調べたことを動画やポスターなど児童に合った方法で全校に知らせる
 ・各クラスで体力向上のための作戦を立て、実践する